

平成29年3月31日

第5号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校(義務教育学校)の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

地域、子どもたち、学校からの提案が (仮称) 厚田小中学校整備基本計画に結実

2月23日(木)、第5回会議が厚田保健センターで開催されました。第2・3回会議のワークショップで委員の皆さんから提案された内容を事務局で取りまとめ、第4回会議で検討した(仮称)厚田小中学校整備基本計画(原案)に一部修正等を加え、設立準備委員会の最終案として承認されました。

そして、3月27日に開催した教育委員会会議において審議され、「(仮称)厚田小中学校整備基本計画」として正式に決定されました。

この基本計画は、校舎建設のための基本・実施設計(新年度に設計業務を委託)の仕様書として活用されます。

※市ホームページに掲載したほか、厚田支所と各学校に配置しています。

● 新たに決まった内容について

第4回会議以降に新たに決定した内容は、次の3点です。

- ① 校舎の建設工事に際し、学校代表者との協議を経て、平成30年の夏休みに厚田中学校の学校機能を厚田小学校に移転します。
- ② 設立準備委員会内に、新年度から教育課程部会を設置します。例えば小学校45分、中学校50分の異なる授業(単位)時間に対応できる日課表やチャイムの鳴らし方といった現実的な問題や、望ましい小中一貫教育のあり方など、義務教育学校の開校に向け、学校運営上の様々な課題について検討します。(平成30年度から厚田小学校と厚田中学校が一つの校舎で教育活動を行うことになったため、各学校からの要望を受け、早い段階から研究協議を行うこととしました。)



絵 墓田充泰氏(元:厚田中教頭・花川北中校長)

- ③ 義務教育学校の9年間の学年割りにについても検討し、前期を4年間、中後期を5年間に区切ることを決定しました。(中後期の5年間でどのように区切るかは、今後、教育課程部会で研究し、決定することとしました。)

● 教室の配置も決定

第4回会議で保留となっていた教室の配置については、学校の意見を聞いた上で第5回会議で検討し、次のとおりとしました。

(普通教室) 「教室配置については、1・2年と3・4年を1階、5・6年、7年、8年、9年を2階に配置する。」

(特別支援教室) 「教室配置は、交流学級との交流学習・共同学習に配慮した教室配置を原則とし、前期課程(小学校)を1階、後期課程(中学校)を2階に配置する。」

● 関係者の願いが反映された基本計画

この基本計画は、これまでの充実した協議をまとめて、約100ページにも及ぶボリュームになりました。話し合いやアンケート等によって明らかになった子ども、地域、学校の願いが、今回決定した基本計画に反映されていることがわかります。

◇ 収穫祭ができる家庭科教室を

【子どもアンケートから】

米作り体験や畑作体験ができ、収穫を祝ってみんなで料理を食べる活動をしたい。海の近くの学校なので、漁業についても勉強したい。漁師さんによる講義依頼。(魚をさばく、食べる)

自然、文化、産業など「厚田ならではのよさ」を生かした学習をしたい。

準備委員会ワークショップでも、この希望を大切にしたいという意見がまとまり、基本計画の中で次のように記載されました。

「家庭科教室」

学校園、学校田で収穫した作物や、水産学習で学んだ水産物を調理し、児童生徒だけでなく、保護者や指導に当たる地域住民も加わることを想定して、十分なスペースを設ける。

◇ 学習効果が高まる高機能な学校を

【子どもアンケートから】

みんな仲良くわかりやすく勉強ができる学校にしてほしい。

【準備委員会ワークショップから】

多様な学習指導、共通な学習指導を進める
・少人数指導・縦割り指導の充実・フリースペース・オープンスペース

複式学級への対応

- ・小学・中学の先生が協力！
- ・一つの教室の黒板2つ！

児童生徒数の推計から、小学校に該当する前期課程では複式の指導が想定されるため、先生方が連携して教科担任制を導入し、教室に高い機能を取り入れることとして、次のように記載されました。

前期課程の教室は複式指導に配慮し、前面と背面に黒板を配置し、テレビ・電子黒板が前面と背面に配置できるようにするとともに、そのために必要な前後長を確保する。

教室におけるICT機器の利用を充実させるため、無線LANアクセスポイントを設置する。

多目的教室や特別活動室は、小学校高学年における教科担任制の単式授業、少人数指導、習熟度別指導などの多様な形態の学習活動に対応できるように配慮する。

◇ 学校に複合的な機能を

【子どもアンケートから】

図書館でたくさんの本を読める学校になればいいな。

【準備委員会ワークショップから】

保育園の整備を

幼・小・中・一貫の校舎に

学校と図書館が同じ建物

地域の人が使える多目的スペース、複合施設

複合的な機能を持つ学校は、地域の強い願いでした。コミュニティ・スクールのしくみを導入し、地域と結びついた学校にするために、この願いが基本計画に反映されました。

- ① 地域開放型図書館（現・あいこぜ図書館）
- ② 保育園機能
- ③ 放課後の居場所づくり
- ④ 福祉避難所

“コミュニティ・スクール”の仕組みや役割と、厚田に導入するうえでの課題は？

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域住民の代表者が知恵を出し合い、意見を反映させて、一緒に協働しながら子ども達の豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める学校運営の仕組みです。法律で定められた制度で、全国の約2,800校で導入されています。

コミュニティ・スクールには、保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などに意見を述べたりします。

各地の先進事例として、放課後や土曜日の学習支援、学びによるまちづくり、地域人材の活用、家庭教育支援等が紹介されています。

「厚田ならではの学校と地域の連携」が生かされる仕組みづくりが今後の課題です。

【発行】

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会事務局
(石狩市教育委員会 総務企画課内)

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp